

＝令和2年度竜王小学校だより＝

竜の子



令和2年7月6日  
No. 12  
校長 小尾 一彦

# 75年前にあったこと、今、起きていること

## 【75年前に起きたこと】

今から75年前の1945年（昭和20年）7月6日の深夜から7日にかけて、短冊に願いを込め軒先に飾った平和な甲府の家々を131機のアメリカ軍B-29爆撃機による爆撃がありました。これが「甲府空襲」です。（「たなばた空襲」とも呼ばれています。）当時、甲府市は東京からの疎開した子どもたちが多く、遠く離れた両親や家族との再会を短冊に書いた子どもたちが多かったはずですが、子どもたちのその願い事は、無残にも打ち砕かれたのです。この空襲で死者は1127名、焼夷弾により市内をなめ尽くした猛火は一晩燃えつづけ、朝になってもくすぶり続けていたそうです。黒い塀と白壁の土蔵が立ち並んでいた城下町の風景はあとかたもなく焼け落ち、焦土の中に焼けただれた6階建ての松林軒（今のホテル「ドゥーミーイン甲府」付近）が残っているだけで、他は見渡す限り焼け野原、至る所に死体が転がっていたとのことです。

6月には沖縄戦があり、県民の4人に1人が命を失ったと言われています。8月6日の広島、9日の長崎原爆投下、そして15日の終戦記念日。8月の声を聞くと、太平洋戦争の話が多くなります。戦後75年、戦争を体験した世代がだんだんと少なくなり、いずれは戦争を体験していない世代だけになってきます。そういう私もその一人ですが、決して風化させてはいけませんし、山梨県であった甲府空襲（大月空襲・吉田空襲もありました）を、山梨県民に伝え残していかなければなりません。（毎年、7月に県立図書館で甲府空襲展が開かれていましたが、今年は、中止となってしまいました。）



甲府空襲を受けた直後の松林軒（甲府会館）

## 【今、起きていること】

今も世界では、たくさんの戦争や紛争が起きています。その中で、現在推定30万人の子どもたちが兵士として使われています。また、災害や戦争でたくさんの人や子どもたちが難民キャンプなどで避難生活をしています。発展途上国と呼ばれている国では6秒に一人の割合で5歳になる前に命を落としています。そして、世界には学校に行きたくても行けない子どもたちが約6100万人もいます。家族でごはんを食べること、家で寝ること、学校で勉強すること・・・今の日本では当たり前のことが、当たり前でない子どもたちが、世界にはたくさんいます。

8月を迎えると太平洋戦争のことが取り上げられる番組も多くなります。そんな機会を通して、75年前の戦争のこと、そして、今、世界で起きていることなどを親子で知ったり、考えたり、話したりする機会にしてほしいと思います。また、6年生は、社会科で太平洋戦争や日本国憲法、国際連合、ユネスコの学習をしますが、戦争のことや世界の状況を知り、平和の意味について考える機会となってほしいと思います。

## ■ 校務支援システムの研修を行いました！～あゆみの評価形式が変わります～

6月27日（月）に、2人の講師を招いて職員対象の校務支援システムの研修を行いました。校務支援システムとは、山梨県が導入する教職員の働き方改革一つとなる校務の効率化を図るためのシステムで、多くの市町村が本年度から導入しています。これまでも甲斐市独自の校務支援ソフトで行っていましたが、県統一の新しいシステムに向けて、成績処理や指導要録・あゆみ・出席簿の作成について研修をしました。また、本年度から学習指導要領が全面实施となります。これまでと学習評価のあり方が変わるため、それに伴いあゆみの評価形式も変わります。詳しいことは、後日、お知らせします。



[令和2年6月23日 沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」より]

### 「あなたがあの時」

沖縄県立首里高校3年 高良朱香音



「懐中電灯を消してください」  
一つ、また一つ光が消えていく  
真っ暗になったその場所は  
まだ昼間だというのに  
あまりにも暗い  
少し湿った空気を感じながら  
私はあの時を想像する

あなたが少女に白旗を持たせたあの時  
彼女は真っ直ぐに旗を掲げた  
少女は助かった

あなたがまだ一人で歩けなかったあの時  
あなたの兄は人を殺すことを習った  
あなたの姉は学校へ行けなくなった  
あなたが走れるようになったあの時  
あなたが駆け回るはずだった野原は  
真っ赤っか  
友だちなんて誰もいない

ありがとう

あなたがあの時  
あの人を助けてくれたおかげで  
私は今 ここにいる

あなたが青春を奪われたあの時  
あなたはもうボロボロ  
家族もいない 食べ物もない  
ただ真っ暗なこの壕の中で  
あなたの見た光は、幻となって消えた。

あなたがあの時  
前を見続けてくれたおかげで  
この島は今 ここにある  
あなたがあの時  
勇気を振り絞って語ってくれたおかげで  
私たちは 知った  
永遠に解かれることのない戦争の呪いを  
決して失われてはいけない平和の尊さを

「はい、ではつけていいですよ」  
一つ、また一つ光が増えていく  
照らされたその場所は  
もう真っ暗ではないというのに  
あまりにも暗い  
体中にじんわりとかく汗を感じながら  
私はあの時を想像する

ありがとう

「頭、気をつけてね」  
外の光が私を包む  
真っ暗闇のあの中で  
あなたが見つめた希望の光  
私は消さない 消させない  
梅雨晴れの午後の光を感じながら  
私は平和な世界を創造する

あなたが声を上げて泣かなかったあの時  
あなたの母はあなたを殺さずに済んだ  
あなたは生き延びた

あなたがあの時  
私を見つめたまっすぐな視線  
未来に向けた穏やかな横顔を  
私は忘れない  
平和を求める仲間として

沖縄戦の組織的な戦闘が終結したことにちなんで、6月23日を沖縄県では「慰霊の日」と定めています。その日に行われる沖縄全戦没者追悼式では、毎年、小中高校生が作った「平和の詩」の朗読がされています。



## ■ 新しい調理員さんの紹介！

6月末に調理員の平賀さんが退職し、7月1日（水）から2人の調理員さんが本校に勤務することになりました。これからもおいしい給食づくりをよろしくお願いします。



芦澤 珠美さん



秋山由里亜さん



給食室にて